31 JULY 2002

第17号

日米エアフォース友好協会

だより

Japan America AF Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会
〒105-0004 港区新橋5-25-1-3
編集：ＪＡＡＧＡ事務局
印刷：財団法人 防衛弘済会

第7回 総会・講演会・懇親会実施

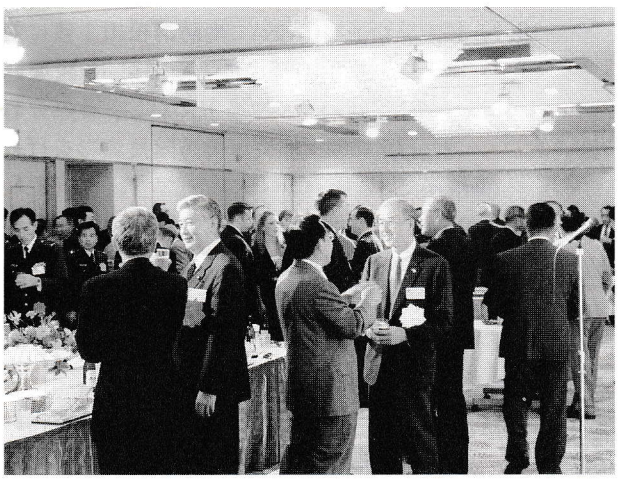
ワスコー中将が日米関係の深化を強調（講演）

防衛庁長官はじめ多数が参加（懇親会）

ＪＡＡＧＡ第７回定期総会、講演会ならびに懇親会が６月27日㈭グランドヒル市ヶ谷において実施されました。

15時から開催された総会には役員を含め61名の正会員が列席するとともに、議決委任者139名を併せ規約に基づく総会が成立し、開始の運びとなりました。平成13年度の事業報告、会計報告に続き、平成14年度事業計画、予算並びに一部規約の改正についての提案がなされ、滞りなく承認されたことをお知らせします。

平成13年度においては、９月11日米国で発生した同時多発テロの影響を受け、一部事業の中止に至ったものもありましたが、14年度においては、積み残しとなったこれらの事業も含めて事業計画が決定



Reception

General Assembly, JAAGA

され、これを下に事業が推進されることとなりました。

引き続き、昨年11月に着任された在日米軍司令官兼第５空軍司令官ワスコー中将による「テロ事件以降の日米安全保障関係の現状と将来」と題する講演が実施されました。講演には正会員の外、招待された横田基地の軍人夫妻をはじめ現役自衛官・法人会員等が加わり、総勢約180名が米国における同時多発テロ以降の日米関係の変化、自衛隊の国際的な活躍や成果について、ワスコー中将の整斉として理解しやすい話に熱心に耳を傾けました。（内容については、後掲）

講演会に続いて懇親会が開催されましたが、これには中谷元防衛庁長官をはじめ、防衛庁に関係の深

い衆参議院、内局、統合幕僚会議、防衛庁関係機関、外務省等の代表者、更に遠竹郁夫航空幕僚長以下航空自衛隊の主要幹部も加わり、会場は立錐の余地なく和気あいあいの内に歓談の花があちこちに開き、おおいなる盛り上がりを見せました。

昨年の米国での同時多発テロ以降、日本国内及び自衛隊においても国際的協力に迅速に対応したことから、今回の講演会・懇親会は、司令官を初めとする米空軍関係者、航空自衛隊及び空自ＯＢを主体としたＪＡＡＧＡの存在意義が一段と高まり、これまでよりＪＡＡＧＡに対する親密感と期待が更に大きくなっているという印象を受けました。

第１号議案

平成13年度事業報告

（自平成13年4月1日～至平成14年3月31日）

第１　事業実績の概要及び会勢の現状

平成13年度は協会の創立5周年にあたり、記念祝賀会等の行事を行うとともに、大学生の横田基地研修を斡旋する等、日米関係の相互理解と友好親善のための新しい企画を実現させた。しかしながら、9月11日に発生した米国同時多発テロ事件の影響により、主要な友好親善事業のいくつかは中止または延期を余儀なくされた。

平成13年度末の会員数は、正会員267名、個人賛助会員22名及び法人賛助会員44法人であり、平成12年度末に比べ17名・法人の増加となった。

第２　事業等の実施状況

１　事業の実施状況

(1)　日米共同訓練における参加日米隊員の激励等

13．5．22　グアムにおける共同訓練に参加する空自部隊に対し、石塚会長が激励した。

13.11.14　南混団コープノース参加部隊に対し、支援を実施した。

(2)　米空軍隊員の激励等

該当する実施事項なし。

(3)　日米共同の行事等に対する支援

該当する実施事項なし。

(4)　空自基地及び米軍基地等の研修

ア　正会員研修

次年度実施することに変更された。

イ　賛助会員研修

次年度１／四半期に実施することに変更された。

(5)　日米要人等の講演・講師派遣

ア　講　演

13．7．6　協会創立5周年記念行事の一環として実施した。

講師：米国大使館クリステンソン首席公使（代理：在日米軍司令官兼5空軍司令官ヘスター中将）

演題：日米同盟は不可欠である。

聴衆：約160名

14．2．8　講師：空幕防衛部長　永谷将補

演題：激動する国際情勢と航空自衛隊の活動について

聴衆：約120名

イ　米軍への講師派遣

14年5月、セミナー（JAAGA TALKS TRIAL）開催に向け調整中である。

(6)　ＳＰＯＲＴＥＸ

米国同時テロ事件の発生に伴い、中止となった。

(7)　在空自基地米空軍幹部等支援

14．3．11　4術校（熊谷）フェラー大尉に対し、希望する支援品を貸与した。

14．3．29　飛行教育航空隊（新田原）ルース大尉に対し、希望する支援品を貸与した。

14．3．29　横田基地において、5空軍司令官ワスコー中将に村木理事長から日米相互部隊研修の支援金を贈呈した。

(8)　日米隊員の表彰

13.10.12　那覇基地において南防群松川1曹に対し、嘉手納基地において第18医薬隊SMSgtハロウウッドに対し、それぞれ石津那覇支部長が優秀隊員表彰を行った。

13.10.16　府中基地において航空総隊大川原准尉に対し、入間基地において中警団大山曹長に対し、横田基地において第374医療隊カステロ中佐に対し、それぞれ石塚会長が優秀隊員表彰を行った。

13.11.17　三沢基地空軍記念日行事において、第14戦闘飛行隊レックス大尉及び北施隊安部曹長に対し、石川副会長が優秀隊

員表彰を行った。

(9) 指揮官交代行事等への出席及び来日した米空軍関係者の接遇

13.10.10 ホテル・グランドヒル市ヶ谷において、第5空軍司令官ヘスター中将送別会を、石塚会長以下有志により実施した。

13.10.19 横田基地司令ザムゾウ大佐の送別夕食会を実施し、石塚会長以下が出席した。

13.10.25 横田基地において、横田基地司令交代式（後任スターンズ大佐）に石塚会長以下が出席した。

13.11.19 横田基地において、第5空軍司令官交代式（後任ワスコー中将）に、石塚会長以下が出席した。

13.11.26 転属する在日米軍広報部長ミニック大佐に対し、感謝状と記念品を贈呈した。

(10) 日米安保等に関する広報活動

ア 講師派遣

該当する実施事項なし。

イ 大学生等に対する講師派遣斡旋等

13.6.20 帝京大（志方ゼミ）学生23名の横田基地研修を支援した。

13.7.25 政策研究大学院大（御厨ゼミ）学生13名の横田基地研修を支援した。

ウ 米空軍に対する広報支援

適宜、米空軍広報記事を「だより」に掲載した。

エ 米空軍又は空自隊員の企業研修斡旋

該当する実施事項なし。

(11) 在日米空軍各基地との連携の強化

14.3.29 横田基地において、村木理事長が5空軍司令官と14年度事業計画等について意見交換を行った。

その他、主として渉外担当理事を通じ、5空軍、米空軍基地等との意志の疎通を図った。

(12) 会報「日米エアフォース友好協会だより」の発行・配布

14号（13.7.30）、15号（13.11.29）、16号（14.3.28）の3回発行した。

(13) 総会及び懇親会

13.4.20 第6回総会をホテル・グランドヒル市ヶ谷にて開催し、総会に約50名、懇親会に約60名が参加した。

(14) 協会創立5周年記念行事

13.7.6 ホテル・グランドヒル市ヶ谷において、記念講演会（「(5)講演」の項参照）及び祝賀会を開催した。祝賀会参加者：約230名

(15) 賛助会員アンケート調査

13.11.27 法人及び個人賛助会員に調査票を送付し、調査を実施した。

(16) その他

13.4.26 日米ネービー友好協会創立10周年行事に石塚会長が出席した。

13.6.16 嘉手納スペシャルオリンピックに助成金を贈呈した。

13.11.17 横田基地司令招宴オープンハウスに増元副会長以下が出席した。

13.12.8 5空軍司令官招宴オープンハウスに村木理事長以下が出席した。

13.12.20 役員懇親会に、来日中の昌子（マギー）サールス女史を招待した。

14.1.31 福生・横田交流クラブ新年会に石川副会長以下が出席した。

2 運営管理の実施状況

(17) 会勢の維持・拡大（14年3月31日現在 （ ）は前年度末）

正会員	267名	(263名)
個人賛助会員	22名	(14名)
法人賛助会員	44法人	(39法人)
計	333名・法人	(316名・法人)

(18) 会員名簿の作成・配布

7月に会員名簿本冊を発刊し、13年11月及び14年3月に修正表を発行した。

(19) 名誉会員制度の創設

第25回理事会（13.12.20）で「名誉会員」制度の制定が論議され、マイヤーズ米空軍大将以下歴代の元5空軍司令官の就任要請を検討することとされた。

(20) 一般広報

ア 空自業務管理講習や各基地の航空際、他団体集会等の機会を捉え、会長以下各役員が自主的かつ積極的に実施した。

イ インターネット・ホームページ

第26回理事会（14.3.28）で開設が検討され、試行することとなった。

ウ パンフレットの更新及び英文パンフレットの作成

パンフレット（英文併記）の作成作業中である。

(21) 理事会及び常務理事会

ア 理事会 ：4回（6/27、9/19、12/20、3/28）

イ 常務理事会：6回（5/18、7/30、10/24、11/29、1/23、2/27）

(22) 監 査

14.4.4 平成13年度収支決算監査及び在空自基地米空軍幹部貸与品の監査を実施した。

第２号議案

平成13年度収支決算報告書

（平成13．４．１～14．３．31）

（単位：円）

収入		支出		
前年度繰越金	3,787,052	事業費	激励慰問費	0
収入			共同訓練激励費	150,997
年会費	3,985,300		研修助成費	0
寄付金	0		式典行事参加費	240,881
利息	2,186		友好親善行事費	1,578,785
雑収入	0		総会費	107,365
計	3,987,486		広報費	1,156,970
			小計（91%）	3,234,998
		運営管理費	名簿関係費	73,642
			会則関係費	0
			入会活動費	59,992
			支部運営費	0
			会議費	6,930
			事務費	37,920
			通信費	0
			旅費	78,000
			雑費	69,775
			小計（９%）	326,241
		計（100%）		3,561,239
		翌年度繰越金		4,213,299
合計	7,774,538	合計		7,774,538

第３号議案

平成14年度事業計画

（自平成14年４月１日～至平成15年３月31日）

第１　事業運営方針

前年度に引き続き、「ＪＡＡＧＡの目指すべき方向について」（12.９.19　第20回理事会承認）に基づく事業を推進する。この際、重視すべき事項は次のとおり。

1　昨年の米国同時多発テロ事件に関連し、在日米空軍に対する支援に配慮するとともに、中止又は延期を余儀なくされた事業を復活実施する。

2　会勢拡大、就中、正会員の増勢に努力する。

3　アンケート調査結果等を活用し、協会の活動について広く各層に理解を求める。

第２　実施事業等の概要

1　事　業

(1)　日米共同訓練における参加日米隊員の激励等

実施事項：訓練参加隊員の激励・慰問

訪問先：訓練のため米空軍が展開する空自基地（千歳・三沢・築城・新田原・春日、入間・府中）

時　期：日米共同訓練実施時

(2)　米空軍隊員の激励等

実施事項：米空軍隊員の激励・慰問

訪問先：三沢、横田、嘉手納

時　期：対テロ作戦行動等に在日米空軍部隊が派遣される場合

(3)　日米共同の行事等に対する支援

実施事項：嘉手納、三沢における日米隊員の友好スポーツ大会等への支援

時　期：大会実施時

(4)　空自基地及び米軍基地等の研修

ア　正会員研修

実施事項：米軍横田基地における施設、装備品等の研修等

時　　期：３／四半期

イ　賛助会員研修

実施事項：空自那覇基地及び米軍嘉手納基地における装備品、施設等の研修及び懇談・激励等

時　　期：１／四半期

(5)　日米要人等の講演・講師派遣

ア　会員及び空自隊員を主対象とする講演

講　　師：米空軍、在日米大使館、防衛庁等の要人

時　　期：総会実施時及び３／四半期

場　　所：都内

参 加 者：正会員及び賛助会員、空自・米空軍隊員

イ　米空軍隊員を主対象とする講演会等への講師等派遣

講 師 等：会員の中の適任者（通訳は米軍が準備）

実施要領：米空軍側の要望（日時、場所、演題等）による。

(6)　ＳＰＯＲＴＥＸ

時　　期：２／四又は３／四半期

場　　所：多摩ヒルズ

参 加 者：会員及び米空軍隊員等

(7)　在空自基地米空軍幹部等支援

実施事項：空自基地派遣米空軍隊員の活動等の支援

対　　象：①　新たに着任した在空自基地米空軍幹部（４基地程度）

②　日米相互部隊研修に参加する隊員

(8)　日米隊員の表彰

対象基地：三沢、横田、入間、府中、嘉手納、那覇

表彰人員：各基地日米隊員１名基準（７名）

時　　期：米空軍記念日等関連行事実施時

(9)　指揮官交代行事等への出席及び来日した米空軍関係者の接遇

対象基地等：三沢、横田、嘉手納、都内

時　　期：都度

(10)　日米安保等に関する広報活動

ア　講演会等への講師派遣等

実施事項：①　部外者、学生等を対象とする講演会等に、会から講師を派遣又は米軍要人等の講師の派遣斡旋

②　大学生等の米軍基地研修の仲介

実施要領：主催者側の計画（日時、場所、経費、その他）による。

イ　米空軍に対する広報支援

実施事項：米空軍が準備する広報記事を「だより」に掲載（「だより」紙面の提供）

実施要領：米空軍（横田基地広報部）との調整による。

ウ　米空軍又は空自隊員の企業研修斡旋

実施事項：米空軍又は空自隊員が研修を希望する民間企業との調整、斡旋

実施要領：米空軍又は空自の計画（研修企業、日時、その他）による。

(11)　在日米空軍各基地との連携の強化

対象基地：三沢、横田、嘉手納

実施事項：各基地との緊密な調整、広報資料の提供等

(12)　会報「日米エアフォース友好協会だより」の発行・配布

発行回数：３回（７月、11月、３月）

ページ数：16ページ基準

(13)　総会及び懇親会

日　　時：14年６月27日（木）

場　　所：ホテル・グランドヒル市ヶ谷

2　運営管理

(14)　会勢の維持・拡大

実施事項：協会のＰＲ（面談、卓話、パンフレット配布等）及び入会案内

実施要領：①　正会員数の拡大のため、積極的に入会勧誘を実施

②　空自退官予定隊員に対しては退官時期に合わせて案内状を送付

(15)　会員名簿の作成・配布

発行回数：本冊１回、修正表２回

時　　期：本冊（７月）、修正表（11月、３月）

(16)　名誉会員制度の創設

対　　象：本会設立時又は設立以降の米第５空軍司令官経験者

実施事項：会則の変更及び対象者への就任要請

(17)　一般広報

実施事項：①　関係広報誌等への投稿、情報の提供等

②　インターネット・ホームページの試行開設

③　パンフレット（英文併記）の更新

(18)　理事会等

理 事 会：四半期毎に１回基準（１／四半期を除く。）

常務理事会：理事会を開催しない月毎に１回基準（８月を除く。）

監　　査：４月（前年度予算及び決算等の監査）

平成14年度事業予定表

項目 ＼ 実施時期		1／四半期			2／四半期			3／四半期			4／四半期		
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
事業	(1) 日米共同訓練参加隊員の激励等	------（日米共同訓練実施時）------											
	(2) 米空軍隊員の激励等	------（部隊派遣時）------											
	(3) 日米共同の行事等に対する支援	------（行事等実施時）------											
	(4) 空自及び米軍基地等の研修	（賛助会員研修）						（正会員研修）					
	(5) 日米要人等の講演・講師派遣			○6/27					○				
	(6) ＳＰＯＲＴＥＸ							○多摩					
	(7) 在空自米空軍幹部等支援							○NCO支援				幹部支援○	
	(8) 日米隊員の表彰						○						
	(9) 指揮官交代行事等への出席等	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→
	(10) 日米安保等に関する広報活動	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→
	(11) 在日米空軍各基地との連携の強化	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→
	(12) 会報「だより」の発行・配布				○17号				○18号			19号 ○	
	(13) 総会及び懇親会			○6/27									
運営管理	(14) 会勢の維持・拡大	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→
	(15) 会員名簿の作成・配布				○本冊				○修正表			修正表○	
	(16) 名誉会員制度の創設			○									
	(17) 一般広報	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→
	(18) 理事会（★）・常務理事会（☆）	☆	☆		☆		★	☆	☆	★	☆	☆	★

第4号議案

平成14年度収支予算

科目			14年度予算	備考
前年度繰越金			4,213,299	
収入	年会費		4,080,000	個人会員92%、個人賛助82%、法人会員100%（54口）
	寄付金		0	
	利息		5,000	
	雑収入		0	
	計		4,085,000	
支出	事業費	激励慰問費	100,000	三沢、嘉手納
		共同訓練激励費	200,000	千歳、三沢、横田、府中、春日、新田原、築城
		研修助成費	190,000	横田、嘉手納
		式典行事参加費	340,000	日米隊員表彰等
		友好親善行事費	930,000	講演会、スポーツ交流、在空自米空軍幹部等支援、指揮官交代行事（3回）、在日米空軍各基地との連携強化（2回）
		総会費	150,000	総会資料の印刷、総会室料
		広報費	1,720,000	会報3回発刊、パンフレット作成等
		小計（82%）	3,630,000	
	運営管理費	名簿関係費	70,000	一回発刊、追録版発刊
		会則関係費	40,000	改正分発刊
		入会活動費	70,000	入会案内郵送料等
		支部運営費	90,000	三沢、那覇、支部長総会参加旅費
		会議費	20,000	理事会、常務理事会経費
		事務費	70,000	事務用品の購入
		通信費	30,000	各種連絡通信費
		旅費	80,000	業務出張
		雑費	80,000	科目外支出、メールボックス使用料
		小計（13%）	550,000	
	予備費（5%）		200,000	
	計（100%）		4,380,000	
翌年度繰越金			3,918,299	

第５号議案

会　則　の　改　正

第５条（会員）を次のとおり変更する

「３　名誉会員：本会設立時又は設立以降の米第５空軍司令官経験者で、会長が入会を要請しこれに応えて入会を受諾したもの。

名誉会員から会費は徴収しない。」

を、２項の次に加える。

第６号議案

役　員　の　選　任

職　　名		氏　　名
会　　長		石塚　勲
副　会　長		石川吉夫、横澤彰夫、増元榮和
監　　事		大橋武郎、荒蒔義彦（新任）
理　事　長		村木鴻二
副理事長		江藤兵部
理　　事		高橋伸治、伊藤惇（新任）、村木裕世（常務理事から）
常務理事	総　務	山本寿之、鈴木喜雄、森　和彦、高島秀雄（新任）
	企　画	吉川武秀、後藤龍一、坂本祐信（理事から）、山口利勝、桑原武彦、川田哲雄、清水正睦（新任）、岩崎克彦（新任）
	会　員	細　稔、尾崎利夫、村岡亮道（新任）、宇都宮靖（新任）
	渉　外	林　昭彦、中司　崇、大串康夫、阪東政詮（新任）
	財　務	横山俊夫、平田伸成
	広　報	田中伸昌、村田博生、篠原輝弘、横幕　功、木村忠信、岡本智博、越智通隆（新任）、四ツ家邦紀（新任）
顧　　問		上田泰弘、白川元春、平野　晃、竹田五郎、山田良市、森　繁弘、大村　平、米川忠吉、鈴木昭雄、松村嘉夫、長谷川孝一、杉山　蕃、平岡裕治

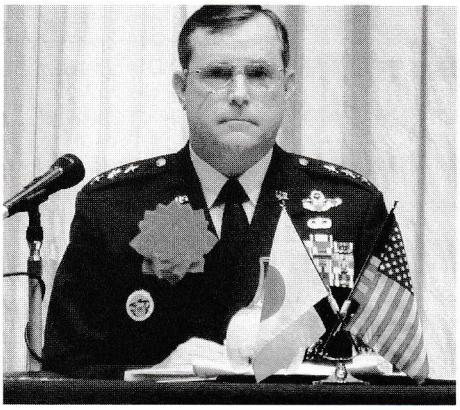
【退任】顧　　問：浦　茂（死去）　　監　事：石母田　治　　理　事：小田　康夫

常務理事：壱岐　紘記、原　充男

JAAGA講演会

テロ事件以降の日米安全保障関係の現状と将来

在日米軍司令官　ワスコー中将



Lt. Gen. Thomas C. Waskow

親切なご紹介ありがとうございます。また、現在及び将来の日米安全保障同盟について私の意見を述べさせて頂く機会を頂き感謝申し上げます。この同盟の信奉者として申しますが、古巣に帰ってくることができとても嬉しく思いました。

在日米軍及び第5空軍司令官として日本に戻ってきてからの日本の友人たちのシーラと私に対する反響に大変喜んでおります。9年間のブランクがありましたが、航空自衛隊と隊員の方々と私どもの友情は益々強くなりました。成功の基盤を個人的関係と仕事上の尊敬に置いているこの国に戻ることができてとてもうれしく思います。

まず始めに、私個人の日本との関係について触れたいと思います。私の家族と日本との関係は、祖父のパーシー・ポー・ビショップが大佐であった1923年に始まります。祖父はその年の3月に起こった関東大震災の被災者への救援物資を運んできたアメリカ使節団の団長でした。祖父の回顧録には、救援物資を運ぶことで日本に対してとても良いことをしたとの思いがあり、それによってとても満たされた気持ちになったとの記述があります。

1952年には朝鮮戦争関係で、父が東京のアメリカ大使館勤務になり、兄を含めた家族4人で代々木にあった小さな日本の家に住んでいました。私と兄は同年代の日本の男の子たちと野球をして遊びました。その環境では野球が私たちの共通語であり、原っぱが全世界でした。次に1986年には私自身が大佐として第18戦術戦闘航空団副司令として沖縄に赴任し、1990から92年には横田基地にある第5空軍作戦部長を務めました。そして2001年11月、在日米軍司令官として日本に帰ってくることができました。

ペンタゴン、そして世界貿易センタービルへのテロの攻撃から9ヶ月が経過しました。あの日全世界が目撃した恐怖は言葉で表すことはできません。9月11日の出来事はアメリカのみへの攻撃ではなく、世界のすべての文明国への攻撃でした。あの日、80カ以上の人たちが命を落としました。その犠牲者はあらゆる民族、宗教そして地域の、罪のない男性、女性、子供たちです。テロとの戦いはすべての国を巻き込んでいます。9月11日のテロ攻撃により我々は根本的な現実に目覚めました。それは、21世紀の安全保障環境は20世紀のそれとは違うということです。そしてこの先、安全と自由を保障するには変化は起きること、また将来のためにはこの教訓を生かさなければならないことを理解する必要があります。皆様もご存知のように軍の歴史に不意打ちはつきものです。あまりにも頻繁に不意打ちを受けるので、未だびっくりさせられることに驚きます。本来は予見するべきなのです。冷戦時代の安全保障環

境は予測可能と思われました。二つの大国はお互いを熱心に研究し、ある行動が意図しない結果をもたらさないように細心の注意をはらっていました。我々はお互いを理解し、抑止し、最終的には効果的に勝つための戦略をたてていました。10年前に冷戦が終結した時、世界は安堵の吐息を漏らしました。民主主義の思想が世界中に広まり、力強い経済的発展と前例のない繁栄をもたらしたことを目の当たりにしました。

9ヶ月前までは危険な軍事能力が複数の敵に広まり、毎日のようにテロ活動が行われていたにも拘わらず、多くの人がすでに脅威は存在しないのではないかと考えていました。この数ヶ月の痛みを伴う経験で学んだことは、今世紀の脅威は前世紀で慣れていたそれとは全く違うということです。以前は起こり得ないと思われていた脅威が実際には現実の脅威となり得るのです。今まで思いもよらなかった脅威を無視すれば、我々の社会生活への影響はこれまで以上にひどくなるでしょう。

日米同盟はこの同盟が成立した50年前には想像もしなかった、新しい共通の敵である国際的なテロリズムに対し堂々と対応しました。グローバルなテロとの戦いにおける日本の貢献は、私たちの時代の偉大な同盟国のサクセスストーリーとして歴史が証明するでしょう。テロへの脅威に対する日本の反応は、この同盟の強さと太平洋地域における日本のなくてはならない役割を明示しました。小泉首相のリーダーシップの下、日本は日米同盟関係において、更にアクティブなパートナーとなる大きな一歩を踏み出し、地域における安全保障のモデルとなっています。

数ヶ月前、ワシントンでの下院国際関係委員会の小委員会で、デニス・ブレアー海軍大将はこれまでに何度もアメリカ政府関係者が言ってきたこと「日本との強固な友好関係は、アジアにおける安全と平和的な発展のために必要不可欠である」を繰り返しました。テロとの戦いにおける日本のタイムリーで意味深い明白な貢献は、この同盟関係の新たなステージを象徴するものです。

ブッシュ大統領が言ったように、テロとの戦いは長く厳しいものになるでしょう。この戦争が終結するには軍事力だけでなく、我々が有するあらゆる手段の同盟国の力が必要となります。

お互いをよく理解し、個々の相違する能力を認めることが大変重要となります。そしてそれらの能力を調整しながら歩調を合わせていくことにより、成功に導くことができます。

現在、両国の軍同士の関係はこれまでで最良のものとなっています。9月11日の翌日には、既に統合幕僚会議事務局のスタッフが横田基地まで来てくださり、自衛隊としてどのような支援ができるのか調査していました。アメリカでの残酷な攻撃の直後、日本政府はその攻撃がどのような影響を日本に与えるのかを議論しました。それから1ヶ月のうちに国会は歴史的な法案を通過し、先日その期間が半年間延長されたばかりです。この法律は連合軍によるアフガニスタン内のテロ組織に対する攻撃を支援することを認めたものです。自衛隊全体が連合軍の作戦を支援することを了承するものでした。

航空自衛隊には、日本において、また遠いところではアフガニスタンでの作戦支援のための要の一つであるディエゴガルシアまで、空輸支援を頂いています。C130とU4は不朽の自由作戦支援のためすでに1000トン以上の貨物と145名以上の人員を運びました。先月のコープノースグアムが成功裡に終ったことも併せ、航空自衛隊と米空軍の協調関係は益々すばらしいものになっております。

海上自衛隊は北アラビア海へ艦艇を派遣し、アメリカの艦艇への燃料補給と監視活動を支援してくださっています。これまでに3千6百万ガロン以上の燃料を海上補給しています。このような作戦支援は、現在も進行中であるアフガニスタンにおける作戦にとり、非常に重要なものであります。乗組員全員のプロフェショナリズムは大変立派なものです。アメリカ海軍と海上自衛隊の艦艇はテロとの戦いだけでなく、重要な訓練や演習でも協力しながら仕事をしています。

海上自衛隊の艦艇がインド洋で米海軍の艦艇を支

援している間、現在ハワイ沖で行われている環太平洋演習ではアメリカ艦艇が日本の艦艇に燃料を補給しています。軍人はそれぞれが個人的犠牲を払っていることを理解しています。一定期間派遣されている間には肉親の死や赤ちゃん誕生などがあります。任務を優先した海上自衛隊の27名の隊員はこのようなことが起こっても船上に留まって任務を全うすることを選びました。自由を守るための重要な作戦を支援してくださり、このような犠牲を払っている隊員の皆様とご家族の皆様に心から感謝いたします。

キャンプ座間での施行調査を終えた陸上自衛隊は、米軍基地警備がいつでもできる状態にあります。約180名の隊員がテロ対策の一つである基地警備のため，車両検査や監視活動、指揮統制の訓練を行いました。米軍に出動命令が出された際には、陸上自衛隊が立てた計画で、米軍施設と家族がこれまで以上に警備されます。日米関係の強さを示す事例として、アメリカからの正式な支援要請を受ける前に、警察庁及び海上保安庁では米軍基地への警備強化を行いました。1500名以上の警察官が出動し、米軍施設の外側の警備につきました。警備員、パトロール、機動隊を重要施設に充て、小さい施設ではパトロールを強化しました。また、ハーディーバラックスとニュー山王ホテルへの警備強化の要請にも迅速に対応してくださいました。アメリカ大使館についても同様です。この数ヶ月間、海上保安庁では80隻を越える巡視船を使い、これまでにない警備態勢で在日米軍施設付近の海岸と港湾を警備しています。この事実は我々の協調関係の成功を顕しており、これらの活動に参加してくださったことを光栄に思います。

Audience

アメリカ国防総省が変化の途上にあるように、自衛隊の役割や可能性も将来の課題に対応できるよう変わりつつあります。昨年12月、日本の国会では自衛官がＰＫＯに参加している間、自衛のための武器使用を認める法改正を行いました。「不朽の自由」作戦における日本の貢献に加え、自衛隊では4ヶ月前に約700名から成る施設部隊を東ティモールに派遣し、バングラデシュとパキスタンの技師からの道路と橋の維持、補修を引き継ぎました。今回のＰＫＯは過去50年の中で最大規模のものであり、地域の平和と安全に貢献するという強い決意のあらわれであります。また、ゴラン高原における国連兵力引き離し監視軍への45名の輸送隊派遣も継続しています。これらの任務についている自衛隊員が世界中から得る信頼、尊敬そして感謝の念は外交的にも、また安定と平和推進のためにも大変重要です。この場をお借りしまして、自衛隊員及び警察庁、海上保安庁と関係省庁に米軍への多大なご支援とテロとの戦いにおける貢献に対してお礼を申し上げます。

日本では現在、他の国のように9月11日に経験したような国家の緊急事態にどのように対応するかを定める「有事法制」についての審議が行われています。我々は日本が安全保障への役割を検討するステップを歓迎します。繰り返しになりますが、日米間の防衛協力関係は最良で緊密な連携を図っており、それが変わることは全く予想していません。

99年に日本の国会では新ガイドライン関連法案が通過しました。この新ガイドラインとその関連法は、周辺事態の際の効果的な協力体制における強固な基礎となっています。この画期的な法律は日米同盟のフォーカスを広め、周辺事態への我々パートナーシップの対応に柔軟性を与えました。今日の脅威に対してはこの柔軟性はきわめて重要です。

新ガイドライン制定後在日米軍と自衛隊は、東アジアにおける脅威への対処能力を高めるための共同計画や演習を着実に拡大してきました。

キーンエッジのような共同訓練を行い、情報の共有、後方支援の増強、指揮統制システム開発への協力を通して、共に実行する能力を常に向上しています。一例をあげますと、科学技術面の改善に加え、現在は日本周辺事態におけるホストネーションの道しるべとなる共同で作成したコンセプトプラン、運用計画があります。我々防衛同盟にとって大変画期的なことでした。これにより、今後の訓練や演習に幅が広がり、日米双方の参加者が共通の基準を持つことができます。

日米同盟の永続的な戦略目標の一つは、当地域の平和と安定です。我々の防衛関係が直面する課題が日本国内での重要な討論を呼び起こしました。日米同盟についての戦略的対話の必要性が言われてますが、私はそれを歓迎します。

最後に、我々の国を守るとの誓いを立てた若者たちについて話したいと思います。私は日々の仕事のなかで、または数々の演習を通して制服を着ている若い人たちを見てきました。彼らはプロフェッショナルであり、有能でしっかりとした教育を受けており、更に彼らの任務への忠誠心を目の当りにするにつれ、気持ちが引き立たされます。この制服を着た者たちは、自国の防衛のために戦うだけでなく、人道主義者であり、平和維持者でもあります。彼らはＮＥＯもできれば人道的任務にもつき、自然災害への対応もし、さらにその他の軍事作戦にも参加します。

キーンエッジにおいて自衛隊と在日米軍は、将来直面すると予想される事態への対処を訓練しました。今年２月の指揮統制訓練のキーンエッジでは危機、または有事の際の指揮統制運用を訓練しました。この演習は参加者にとって現実的で妨げのない訓練の場となり、また司令官やスタッフはコンピューターによってはじき出される事件に対して、リアルタイムで予想し対応する能力を高めることができました。

今後は、これまで以上に新ガイドラインの下に与えられる任務や役割を通して、多方面にわたる共同演習や相互運用性を高める機会が増えることでしょう。きっちりと訓練され、どんな危機にも即応できる同盟は、ポジティブで力強い抑止力となります。

現在、両国が直面している課題は、これまでの伝統的な軍事同盟を超越しています。安全保障上の成熟したパートナーとして、両軍一体となって９月11日以降の環境を安定させるための肥沃な土台を作る先頭に立っています。グローバルな安定のための取り組みが始まったばかりですが、良い結果の出ている両軍の成果が見え始めています。

我々の任務は「ニューノーマル」の定義づけです。どのように作戦を運用し、また日々の社会生活をどのように一緒に生きるか。定義づけすることにより、これまで大事にしてきたことを続けられるのです。オリンピックやワールドカップのようなスポーツ競技を開催していきます。各個人が社会生活や趣味もエンジョイします。これらすべてのことをこれまでより賢く継続してやっていくのです。普通の生活に戻りますが決意は変わりません。

日本はこれらの新しい任務を、周辺諸国がその目的と制約を理解できるように透明性を持って行っています。自衛隊は過去の任務から未来のための任務に移行しています。そして、この協調関係は周辺地域にとって重要であり続けます。我々の第一の任務である日本の防衛のための能力と即応性の維持に努めながら、相互運用性を高める努力も続けなければなりません。周辺地域の平和と安定の促進をしていく中で、日米安全保障同盟に代わるものはありません。50年以上に亘る両国の友情と同盟関係が、現在ほど強固であった時はなく、将来の課題に自信を持って対処していけるでしょう。

世界情勢が変わる中、両国の友情が変わることなく続いてきたこの古巣に帰ってこれたことは、私にとってすばらしい経験です。この偉大な二国における相互の尊敬と友情の念は岩のように硬く、「ニューノーマル」の世の中になっても何ら変わることはないでしょう。

最後にもう一度、私の考えを皆様と共有する機会をくださいましたことにお礼申し上げます。

「ＪＡＡＧＡ トークス」トライアルで多大な成果！！

米側／継続開催を熱望・ＪＡＡＧＡに強い期待

平成14年5月23日、タマ・ヒルズ・レクリエーション・センターにおいてＪＡＡＧＡメンバーと在日米軍主要幹部の間で、“新たな任務を担う時代の基地対策について”と題するセミナーが実施された。ＪＡＡＧＡはかねてから在日米軍の存在意義を広く国民に理解してもらうために何らかの役割を果たそうと考え、昨年度「ＪＡＡＧＡ トークス」として企画したが9.11テロの影響で実現せず、今般ようやく念願が叶い、セミナーの開催にたどり着くことが出来た次第である。

冒頭大串康夫氏から挨拶とともに絶妙なユーモアが飛び出し、第1種の制服に身を固めた米軍側もスーツにネクタイ姿の日本側も思わず引き込まれ、堅い雰囲気もすぐさま溶け始めて和気藹々のうちにセミナーは開始された。

林昭彦氏の基調スピーチ、そしてこれに続くワスコー中将のスピーチと次第にセミナーは盛り上がりを見せ、如何にしたら在日米軍のミッションに対して近隣住民の理解を得ることが出来るかという観点から、特に日本側参加者からの豊富な経験に基づくアイデアがいろいろと提示され、米軍側主要幹部は熱心にメモを取り、しきりに肯きを繰り返して納得の様子であった。

元来言語・文化・慣習の相違、法制の相違、ＳＯＰの相違等に起因する多くの行き違いや誤解が、時として在日米軍の将校・兵士の気分を害し、また、地元の住民の無理解を招くという事態となって無用の摩擦を引き起こすことがあるが、こうした機会に多くの思い違いを修正し相互に理解し合うことによって「日米同盟の実」を更に高めていくことが何にも増して重要であること、セミナーを終えた参加者全員が納得した次第であった。

内容については非公開とするという約束の下に、セミナーを更に続けていきたいという米軍側の熱意を受けて、「今度は少し場所を変えて、アロハ姿でやってもいいね。」との意見も出るなど多くの忌憚のない提案もあり、セミナーは更に展開をみせていく様相を示しつつ盛会裡の内に第1回目を終了した。

早朝にも拘わらず参加者のためにスナック形式の朝食が用意され、昼食はゴルフコースのクラブハウス、そして5フォーサムでゴルフをしながらのフォロー・アップと、ワスコー中将初め米軍側の至れり尽くせりのもてなしを頂き、日本側参加者も感激の一日であった。なお、今般のセミナー参加者は次の通りであった。

Keynote Speeker, Maj. Gen.（Ret.）Hayashi

米軍側：在日米軍司令官ワスコー中将、374輸送航空団司令スターンズ准将、374作戦群司令シャッツ大佐、374支援群司令ヘス大佐、374衛生群医監イシャウアー大佐、在日米軍司令部幕僚長ハンプトン大佐、在日米軍司令部作戦部長シャグ大佐、605作戦群司令ウェックホースト大佐、374通信隊長デーヴィス中佐、374輸送航空団幕僚長ディッキー中佐

日本側：大串康夫、林昭彦、岡本智博、清水正睦、越智通隆、村岡亮道、中司崇、鈴木喜雄、横幕功、板東政詮

（常務理事　岡本智博）

投　稿

嘉手納スペシャルオリンピックに参加して

――600名のアスリートと2000名以上のボランティアが参加、熱意に感動――

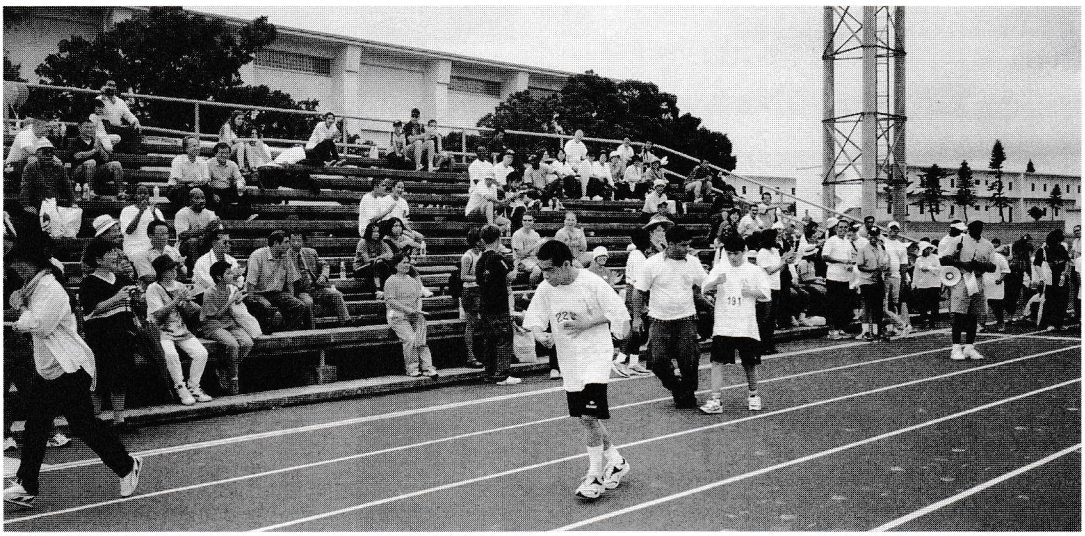
副会長　横澤　彰夫

6月1日（土）米軍嘉手納基地において行われたスペシャルオリンピックにゲストとして参加し、感銘を受けましたのでその報告をいたします。

そもそも、スペシャルオリンピック（以下ＳＯ）とは何か、ということでありますが、これは、知的発達障害のある人々（アスリート）の自立と社会参加を目指し、日常的なスポーツにとりくみ、その成果を発表するための競技会を提供するボランティア活動のことであります。

1963年に故ケネディ大統領の妹、ユニス・ケネディ・シュライバー夫人が、自宅の庭を開放して実施したデイ・キャンプがＳＯの始まりと言われています。以後、ケネディ財団の支援もあり、全米から世界へと拡がり、現在、本部は、アメリカ・ワシントンＤＣにあり、約160ヶ国が加盟し、120万人のアスリート、100万人を越えるボランティアが活動している組織であります。これは、非営利活動でありますから運営は、全てボランティアと善意の寄付によって行われています。

嘉手納基地でのＳＯは、今年が3回目で、1回目は、100名のアスリートが参加し、2回目は、それが400名となり、3回目の今年は、600名のアスリートとそれを支える2000名以上のボランティアの参加となりました。



Special Olympic

ＪＡＡＧＡは、昨年から、この活動に対し、ささやかではありますが、寄付の協力を行なっております。

アスリートとボランティアは、日常のトレーニングを通して、目標を達成する喜びを分ち合い、共に苦しみ、共に生きる喜びを味わいます。そして、ＳＯの最大の目標は、アスリート達のさまざまな能力を高めること、彼らが自信と勇気を持つことにより、彼らの心と体を成長させることにあります。また、ボランティアは、この活動により、「彼等に教えるより、教えられることの方が多い。」と口をそろえて言っております。そして、本大会で、多くのアスリートが目標に向ってひたむきに努力する姿とそれ

を支える多くのボランティアの熱意に少なからず感動を覚えました。

全ての人々が本大会に参加したボランティアの人達のような気持を持てれば、地球上から戦争もなくなるのではないかとも思いました。

嘉手納基地では、早くからカントレール大佐を長とするＳＯ委員会（プロジェクトチーム）を結成し、準備を進め、当日は、米軍人はもとより、家族ともども、基地をあげてボランティア活動を実施していました。

そして、本大会の合言葉は、開会式で、嘉手納、第18航空団司令官レミントン准将の挨拶にもありましたが〝Let me win. But if I cannot win, let me be brave in the attempt.〟（我に勝利を、たとえそれが叶わずとも勇敢に戦わせ給え）で、まさに、その通りの大会であったと思います。

また、各種のスポーツ競技のみならず、美術作品の展示会も基地の体育館で、同時に開催されていました。

翌２日（日）には、同じく嘉手納基地（将校クラブ）で本大会のためのレセプションが実施されましたが、両日ともに、ＳＯインターナショナル理事長のサージェント・シュライバー氏（ＳＯの創始者ユニス・ケネディ女史のご主人）、ベイカー在日駐米大使夫妻、稲嶺沖縄県知事、ＳＯ日本理事長　細川佳代子女史（元総理夫人）、ベッツ沖縄総領事、在沖米軍の各指揮官等の参加が予定されていました。

なお、２日のレセプションの席上で、ＪＡＡＧＡの協力に対して、ＳＯ委員会から感謝状と盾が贈られましたので、合わせて報告させていただきます。

The Letter of Appreciation from S.O.

在日米軍部隊指揮官交代

第18航空団司令（嘉手納）に レミントン准将

Brig. Gen. Remington

第18航空団の指揮官交代式は、４月10日嘉手納基地において、ワスコー中将を執行官として執り行われ、ノース准将からレミントン准将へと指揮権が引き継がれた。ノース准将は2000年８月から１年９ヶ月にわたる第18航空団司令としての勤務を終え、次の補職である国防総省Ｊ－５政治軍事部次長へと栄転された。新任のレミントン准将はニューメキシコ州キャノン空軍基地第27戦闘航空団司令からの着任であり飛行時間3600時間以上の経験を持つ。主な経歴は次のとおり。

1977年　米国空軍士官学校卒業任官
1990年　バージニア州ノーフォーク米軍幕僚大学学生
1997年～1998年　国防大学学生
1998年～2000年　ペンタゴンにて統参本部Ｊ－５政策企画課長
2000年～2002年　ニューメキシコ州キャノン空軍基地第27戦闘航空団司令

賛助会員沖縄基地研修

精強な部隊に深く感銘

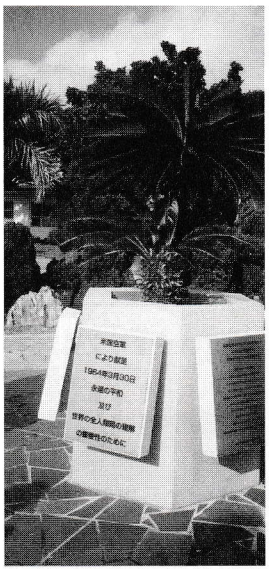
常務理事　村　田　博　生

恒例となったＪＡＡＧＡ賛助会員の基地研修が６月11日・12日の両日にかけて丸紅エアロスペースの山口生夫氏を団長とする法人・個人賛助会員23名と添乗の正会員４名、総勢27名で沖縄地区の日米基地で実施された。

初日は空自のＣ－１輸送機の体験搭乗を兼ねて入間基地から那覇基地に飛び、南西航空混成団司令内山好夫空将をはじめ在那覇空自主要幹部との昼食会に続いて概況説明、基地内研修の後米軍嘉手納基地に移動し、任務のため不在の第18戦闘航空団司令及び副司令に替わる第18作戦群司令ゴンレス大佐に表敬し、その後大佐自らの全般説明につづいて基地内をバスツアー方式で研修した。夕刻から基地将校クラブでＪＡＡＧＡ主催の夕食会を開催しゴンレス大佐、山口団長相互にＵＳＡＦ、空自、ＪＡＡＧＡの今後の発展を願うスピーチに続く会食を通じて所在部隊主要幹部との懇親は大いに盛り上がった。

宿泊は当初基地内の外来宿舎の予定であったが、都合により急遽沖縄市のホテルに変更となりグローバルに活動している米空軍の姿を直接肌で感じることとなった。

翌日は米軍食堂で朝食の後米軍バスで基地所在のＦ－15、KC－135、HH－60の各飛行隊で実機に触れ、MC－130を運用する353特殊作戦群で映像による説明を受けたのち、第18弾薬中隊に移動し各種ミサイルと弾薬の移送作業の実態を見学して基地を後にした。



那覇基地では限られた時間内で昼食をとり厚生センターを見学したのち再びＣ－１便で入間基地に帰った。

折から発生した台風４号の影響を心配したが、直接

影響を受けること無くタイトなスケジュールながら出来るだけ多くの場所を研修して戴こうとの意図どおりに実施したが、参加者の皆様からは「精強な米空軍と沖縄での地元対策の実態を肌で感じた」との所見を戴き、多大の成果と日米懇親の実を揚げることが出来た。

以下、参加者の所感文を掲載する。

KC－135 Air Tanker

AGM－65 Maverick

所　感　文

丸紅エアロスペース株式会社
営業総本部長　**山　口　生　夫**

先ず初めに、此度の貴重な研修の機会を設けて戴いた日米エアーフォース友好協会（ＪＡＡＧＡ）の関係者の皆様と、研修に際し格別なるご配慮とご協力を戴いた航空自衛隊の関係者の皆様に、心から感謝致すと共に厚く御礼申し上げます。

さて、今回の二日間に亘る、航空自衛隊那覇基地、米軍嘉手納基地研修において実施された日米両部隊の指揮官の方々によるミッションブリーフィング、基地内施設の見学、懇親会での談話を通じ日米各々の部隊の任務、編成組織及び主要装備等に就いての認識を深めると共に日米安全保障体制の重要性を再確認し、又米軍関係者との友好親善をはかる事が出来た事は筆者にとって非常に有意義な研修でありました。

又筆者は、同時に日米航空防衛力の比較に於いて我が国独自に依る防衛の重要性、特に航空防衛力の強化、維持の必要性を痛感致しました。特に在日米空軍の駐留と役割、とりわけ今回の研修で訪問した嘉手納基地における第18航空団をはじめとし、18航空団の指揮下に無い13の部隊の戦略的な重要性とその任務を知り、沖縄に駐留する在日米軍の存在は日米安全保障条約の目的達成の為は言うまでも無く、極東アジアの安定と抑止の為のみならず米国の世界戦略の一翼を担っている事を新めて実感すると同時に沖縄が太平洋のキーストーンであると言われる意味を充分理解する事ができました。

又更に筆者は沖縄における米軍の存在は地域的な平和と安定と言う日米双方の国益の追求に寄与する反面、現在の沖縄県民が抱える米軍基地問題をどの様に解決すべきか？と言う問題提議をも自分自身に与えた研修でもありました。

株式会社　日立製作所
ディフェンスシステム事業部
装備システム本部　航空・通信システム設計部
大　澤　芳　和

この度は、日常ではなかなか体験し難いJAAGA米空軍嘉手納基地等研修に参加させていただきました。研修内容は、那覇基地にて南西航空混成団のブリーフィングおよび基地内見学、米空軍嘉手納基地にて

第18作戦群、第353特殊作戦航空群のブリーフィングおよび基地内見学を行い、また各基地での基地幹部等との懇親会でした。

今回の研修で、入間基地から那覇基地への移動のため、Ｃ－１輸送機に搭乗することができました。民間航空機とは、搭乗方法も座席も異なる輸送機での空路は、何事にも替え難い貴重な経験であり大変感激致しました。幸運にも、飛行中の輸送機内やコックピット内を見学する機会を頂き、実際の運用の姿を拝見できたことは、今でも心に焼きついております。

数ある貴重な研修の中でも、特に実際の航空機等の装備品を見学できたことは、印象深いものがありました。那覇基地内の第83航空隊Ｆ－４ＥＪ改の見学では、実際にコックピットに搭乗させて頂きました。コックピット内は様々な電子機器等が並び、座った状態で手が届く全ての場所に機器があることは、大変驚きました。各機器の見やすさが危険な運用中においては非常に重要なことであると実感することができました。

嘉手納基地内では、KC－135空中給油機の中も見学させて頂きました。KC－135の中は、意外に広く、給油口には隊員が覗く窓が付いていることを教えて頂きました。また、第18弾薬中隊にて、各種弾薬等を見学でき、実際の形状等を確認できたことは印象に残っております。

ブリーフィングを通して、航空自衛隊および米空軍の沖縄における役割等について、再認識することができました。また、研修全体を通して、様々な人達と出会う機会を頂き、普段は聞くことができない話や同業種の方々と話すことができたことは貴重な経験でした。

最後に、このような貴重な機会を設けて頂いたＪＡＡＧＡ幹事の皆様と各基地等でご配慮頂いた関係者の皆様方に心から感謝致します。

日本航空電子工業株式会社
航機営業本部　防衛営業グループ
細　江　　紫

この度は、基地研修に参加させていただきありがとうございました。入間基地からのＣ－１搭乗に始まり、全てが初めての体験でした。

現場では実際に自社製品又は同等品が搭載されているのを見て、一つ一つの部品の重要性を認識致しました。沖縄では、潮風による影響で劣化が進むといった悪条件があるなかで、耐用年数の長い機体を維持していくのは大変多くの苦労が伴うと思われます。

「いかに早く部品を交換し取り付けるかがキーポイントである」と、機体見学時にお話しがありましたが、機体だけでなく他の設備も含めてスピードとの勝負のなかで即応態勢を保持することのむずかしさを理解できたのではないかと思います。

今回は、沖縄という場所の重要性を実感致しました。今までは自分のいる本州から沖縄を見ていたのですが、沖縄を中心に周囲に目を向けた時、半径内に入る地域は複雑であるという地図を見れば一目瞭然の事実も、普段の生活では気づくことがなかったと反省しています。これは、沖縄が米軍本土から離れた場所であっても、また同時に離れた場所であるゆえに、米空軍内でも有数の施設や部隊が投入されていることからも納得できることでした。

沖縄には長い歴史があり、今後解決すべき問題も数多く残っていますが、双方の努力により良好な関係が保たれていくことを希望しました。

また、「現在の米国は平時ではない」ということも改めて認識させられ、平和について考えさせられるものとなりました。

広大な基地内で施設や機体を見せていただき、夕食会では実際に米軍の方からお話しを伺うこともできて有意義かつ貴重な体験となりました。この研修を通じて理解したことを、今後の業務に役立てることができればと希望しております。

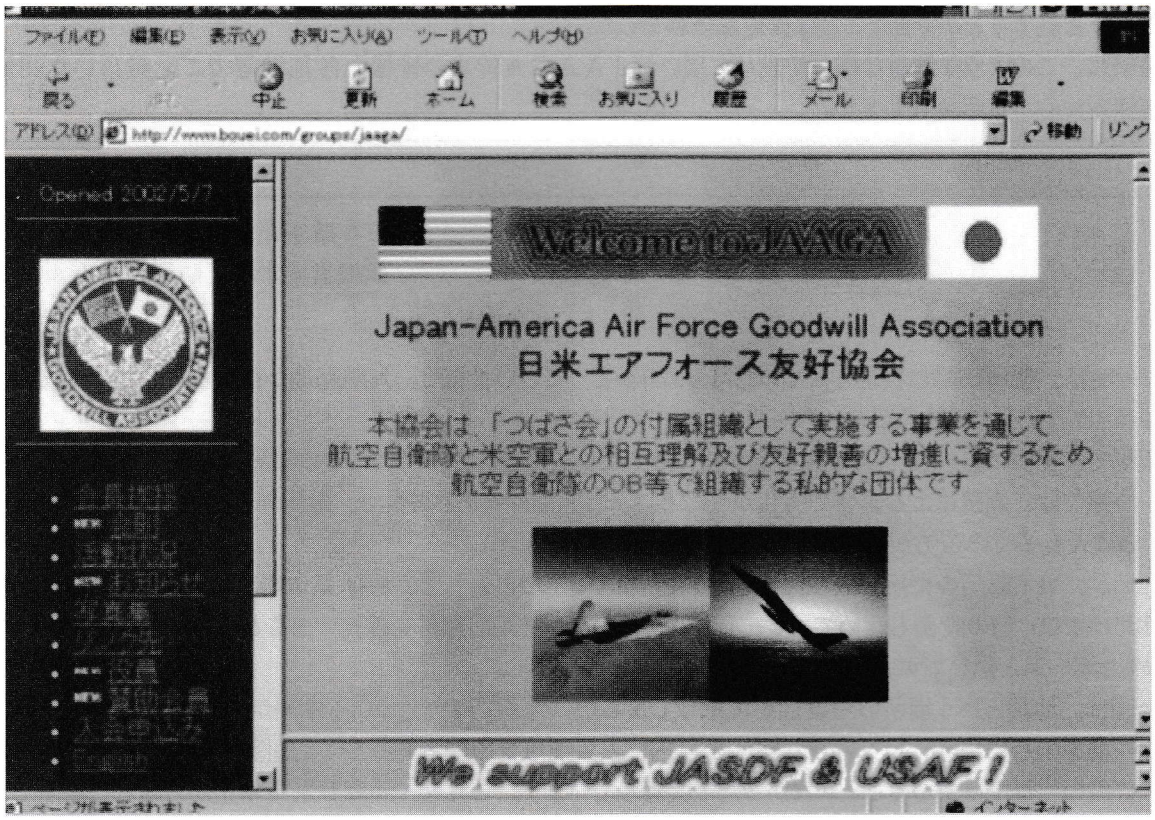
最後に、今回の研修をご手配くださいましたＪＡＡＧＡの皆様及び行程中にお世話いただきました関係者の皆様に感謝し、厚くお礼申し上げます。

お知らせ

待望のＪＡＡＧＡホームページ開設

（ＵＲＬ：http://www.bouei.com/groups/jaaga/）

ＪＡＡＧＡのホームページが本年５月７日に開設されました。本ホームページは会員に対して協会の活動状況等をお知らせするとともに、自衛隊のＯＢ・ＯＧ等の会員で構成される防衛ドットコムの会員に公開し、日米エアフォース友好協会の活動を理解して頂くためのものです。このホームページは過渡的な処置として、会員等に限定した一方向の公開となっていますが、将来は一般に公開し、多くの人に航空自衛隊及び在日米空軍の活動等を紹介するとともに、日米友好等に関する意見交換の場にしたいと考えています。



１　アクセス前に

本ホームページにアクセスするには防衛ドットコムの会員になる必要があります。防衛ドットコムのホームページ（ＵＲＬ：http://www.bouei.com/）を開き、新規会員登録の手続きを実施して下さい。当然のことですが既会員は不要です。仮会員登録を済ませますと、メールでユーザ名とパスワードが通知されますので記録して下さい。ＪＡＡＧＡのホームページにアクセスする時にこれらが必要となります。（細部入会手続は下記参照）

２　ＪＡＡＧＡホームページへのアクセス

保有パソコンのブラウザ（インターネット・エクスプローラ等）を立上げ、URLアドレスにhttp://www.bouei.com/groups/jaaga/のＵＲＬを入力す

ると前述のユーザ名とパスワードが要求されます。これらを入力するとＪＡＡＧＡホームページのインデックスが開かれます。インデックスを開いた時点で、「お気に入り」に登録すると以後のアクセスが便利です。インデックスの左側部分にカーソルを移動し各項目をクリックするとそれらの内容が右側部分に現れます。全周にわたりマウスを動かしてみて下さい。なお、他人のＰＣからでも本ページにはアクセス可能です。但し、その際ユーザ名とパスワードが要求されます。

3　主要なコンテンツ

本ホームページの構成の概要は以下の通りです。

(1)　会長挨拶：石塚会長からのメッセージ
(2)　会　　則：本協会の会則、細則
(3)　活動状況：本協会の各種活動状況の概要
(4)　お知らせ：本協会から会員等に対する連絡事項等
(5)　写 真 集：航空自衛隊及び在日米空軍の現有航空機
(6)　リンク先：日米の主要な空軍サイト等へのリンク
(7)　賛助会員：法人の賛助会員の名前及び会員各社のホームページへのリンク
(8)　入会申込み：ＪＡＡＧＡ会員の申込電子フォーム
(9)　What's new：ＪＡＡＧＡ、空自、在日米空軍のエポック等

・ホームページを担当する四ツ家常務理事からのメッセージ

(1)　本ホームページは空軍カラーのブルーを基調に多量の画像を取込み、格好良さを追求していますが、何せ素人の造ることで今一歩の感があります。逐次改良を加えていきたいと思います。御意見等は本ホームページからメールで管理者宛に御一報下さい。

(2)　現在、英語版は本協会の設立趣旨のみですが、一般公開時には在日米空軍人等のアクセスが予想されます。つきましては英語版作成の協力者を募集しています。

(3)　サーバに制約はありますが、可能な限り多くの画像等のライブラリを増やしていきたいと思います。退役した空自機・過去日本に配備された米空軍機等の画像、空自と在日米軍の交流等時の逸話（神代の時代から今日まで）等が御座いましたら、管理者に情報提供をお願いします。

(4)　ホームページの更新は月１回を原則としていますが、可能な限り最新の状態で管理したいと思います。最新情報はインデックスにＮＥＷのマークを付けています。

(5)　現在、動画、音声等を含んでいませんが将来は取込みたいと思います。

(6)　本ホームページは 800×600 のディスプレイに適合するように作成しています。

＊防衛ドットコム加入手続き（既防衛ドットコム会員は不要）

1　防衛ドットコムのホームページ（http://www.bouei.com/）にアクセスする。
2　同ホームページの右上「新規会員登録はこちら」をクリック
3　会員規約が表示されるので「同意する」をクリック
4　登録フォームが表示されるので所要事項を記入後、「送信」をクリック
　その際、ＪＡＡＧＡ会員は入会理由の欄に「ＪＡＡＧＡ会員」と入力
5　仮登録され、ユーザ名とパスワードがメールで送付される
6　往復葉書で正式登録の確認書が送付されるので所要事項記入後、返送する
7　正式会員登録済みの通知がメールで送付される

… 新入会員の紹介 …

1　新入会員の紹介

(1)　正　会　員

氏名 勤務先	〒	住所・電話番号（上段：自宅、下段：勤務先）	
阪東政詮	191-0032	日野市三沢２－28－12	042-593-9127
日本技研㈱	151-0053	渋谷区代々木１－36－４	03-3320-3031
横山英男	356-1107	所沢市東狭山ヶ丘１－690－６	042-921-1030
㈶日本気象協会	170-6056	豊島区東池袋３－１－１　サンシャイン61	03-5958-8130
岩崎克彦	156-0003	世田谷区野沢４－24－１－2003	03-5430-8633
三菱重工㈱	100-0005	千代田区丸の内２－５－１	03-3212-9582
岩崎玲一	358-0053	入間市仏子603－１　17－402	042-932-5560
㈱ジュピター	107-0062	港区南青山３－17－４	03-3403-1312
望月靖夫	350-1323	狭山市鵜の木16－51－315	042-953-5600
日本アビオ㈱	105-0003	港区西新橋３－20－１	03-5401-7366

(2)　個人賛助会員

氏名	〒	住所	電話番号
林テル	145-0061	大田区石川町２－３－13	03-3720-5849

(3)　法人賛助会員

法人名 代表者	〒	住所	電話番号
NTKインターナショナル㈱ 浜辺武吉	105-0003	港区西新橋２－５－11　ＮＴＫビル	03-3593-2200

2　名簿修正等

(1)　下記の正会員及び法人賛助会員は、記載事項の変更があり、新名簿に修正の上、記載致しました。

ア　正会員

石母田　治、小泉　進、近藤　昌、村木裕世各氏

イ　法人賛助会員

旭化成㈱、川崎重工業㈱、東京航空計器㈱、東洋通信機㈱、㈱日立製作所、富士通㈱、三菱電機㈱

(2)　その他

ア　訃　報

富田　武征氏

イ　退　会

(ア)　正会員

石津節正、西田　稔、大林和夫、遠藤重敏、鈴木　至、森林徹郎、小吹　優、西山幹男各氏

(イ)　個人賛助会員

大隈ミヤ、岡本時子各氏